清武町埋蔵文化財調査報告書　第32集

清武上猪ノ原遺跡第５地区

－３－

県営農免農道整備事業船引２期地区工事にかかる埋蔵文化財調査概要報告書

２０１０

清武町教育委員会

序

本書は本町の船引地区において県営農免農道整備事業に伴って平成17年度から平成20年度に発掘調査がおこなわれた清武上猪ノ原遺跡第５地区の平成21年度に実施された整理作業の概要報告書です。

本遺跡は九州で初めての出土事例となる矢柄研磨器や、国内最大級の縄文時代草創期の集落跡が検出されて全国的に注目を集めました。その他にも約二万年前の旧石器時代から中世・近世までの膨大な量の遺構・遺物が発見されております。昨年度からその整理作業を本格的に開始し、本書でその成果の一端を紹介いたします。

これからも整理作業を継続して行い、清武上猪ノ原遺跡の調査成果をまとめることにより、部分的ではありますが現状保存された本遺跡の活用方法を検討するとともに、学術研究、学校教育、生涯学習の発展に貢献できるようにしたいと考えております。

最後になりますが、本年度の整理作業に際してご協力いただきました中部農林振興局、専門的なご指導をいただいた先生方や整理作業に従事した整理作業員の皆様など関係者の方々に心よりお礼申し上げます。

平成22年3月

清武町教育委員会

教育長　　神　川　孝　志

例　言

1．本書は清武町教育委員会が平成21年度に整理作業を実施した清武上猪ノ原遺跡第５地区の概要報告書である。
2．なお、現地調査は平成17年度から平成20年度にかけて実施した。
3．調査組織（平成21年度整理作業）

調査主体	清武町教育委員会	
	教　育　長	神川　孝志
	教　育　次　長	児玉　秀樹
	生涯学習課長	日高　貞幸
	生涯学習課長補佐兼文化振興係長	川越　健
	文化振興係　主査	井田　篤
	主任	秋成　雅博（報告書担当）
	嘱託	今村　結記（報告書担当）

4．現場における測量・実測作業は秋成・今村・若杉知和・平山景将・
が行い、一部を(有)ジパングサーベイ、㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

5．本書にかかる遺物の整理並びに報告書作成業務については平成21年度に清武町埋蔵文化財センターで行った。
整理作業員…
(50音順)

6．本書で使用した写真について現場における撮影は秋成・今村が行い、遺物撮影については秋成が清武町埋蔵文化財センターで行った。

7．本書で使用した土層及び土器の色調等は『新版　標準土色帖（1997年後期版）』の土色に準拠した。

8．本書で使用した方位は磁北と座標北がある。座標北を用いる場合にはG.Nと表示する。またレベルは海抜絶対高である。

9．本書で使用した記号は以下のとおりである。
SC…土坑　SI…集石遺構

10．本書の執筆・編集は秋成・今村が行った。

11．出土遺物その他の諸記録は清武町埋蔵文化財センターに保管している。

目　次

第１章　はじめに…… 1

第１節　調査の経過と現状保存について

第２節　平成20・21年度整理作業の概要

第２章　縄文時代早期の遺構と遺物の整理…… 2

第１節　集石遺構について

第２節　包含層出土土器について

第３章　縄文時代草創期の遺構と遺物の整理…… 9

第１節　遺物について

第２節　SC-313について

調査抄録…… 16

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図（Ｓ=1/25000）…… 1
第２図　縄文時代早期集石遺構実測図（Ｓ=1/30）…… 3
第３図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図（Ｓ=1/3）…… 5
第４図　縄文時代草創期土器実測図（Ｓ=1/3）…… 10
第５図　縄文時代草創期石器実測図（Ｓ=1/3　1/2）…… 11
第６図　SC-313及びSC-313出土土器実測図（Ｓ=1/30　1/3）…… 14

表　目　次

第１表　縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表…… 4
第２表　縄文時代草創期石器計測分類表…… 13
第３表　縄文時代草創期土器観察表…… 13

図　版　目　次

写真図版１　縄文時代早期集石遺構①…… 6
写真図版２　縄文時代早期集石遺構②…… 7
写真図版３　縄文時代早期遺物包含層出土土器…… 8
写真図版４　縄文時代草創期遺物…… 12
写真図版５　SC-313及びSC-313出土土器…… 15

第１章 はじめに

第１節　調査の経過と現状保存について

県営農免農道整備事業船引２期地区工事に伴い事業区の一部に清武上猪ノ原遺跡の一部が含まれることとなり、遺跡の取り扱いについての協議の結果、開発区域について宮崎県中部農林振興局の委託を受け、清武町教育委員会が発掘調査を実施することとなった。調査期間は平成17年７月26日から平成20年５月30日までで調査面積は3700㎡である。

なお、平成19年度の調査において西日本最大級の縄文時代草創期の集落跡（竪穴住居跡14棟）が検出され全国的に注目を集めることとなった。そこで清武町は現状で遺跡を保存すべく道路工事の計画変更を要望し、最終的には道路の方線を変更して縄文草創期の集落跡の大半を現状で保存できることとなった。現状保存となった部分については遺構の保護のために山砂で覆っている。

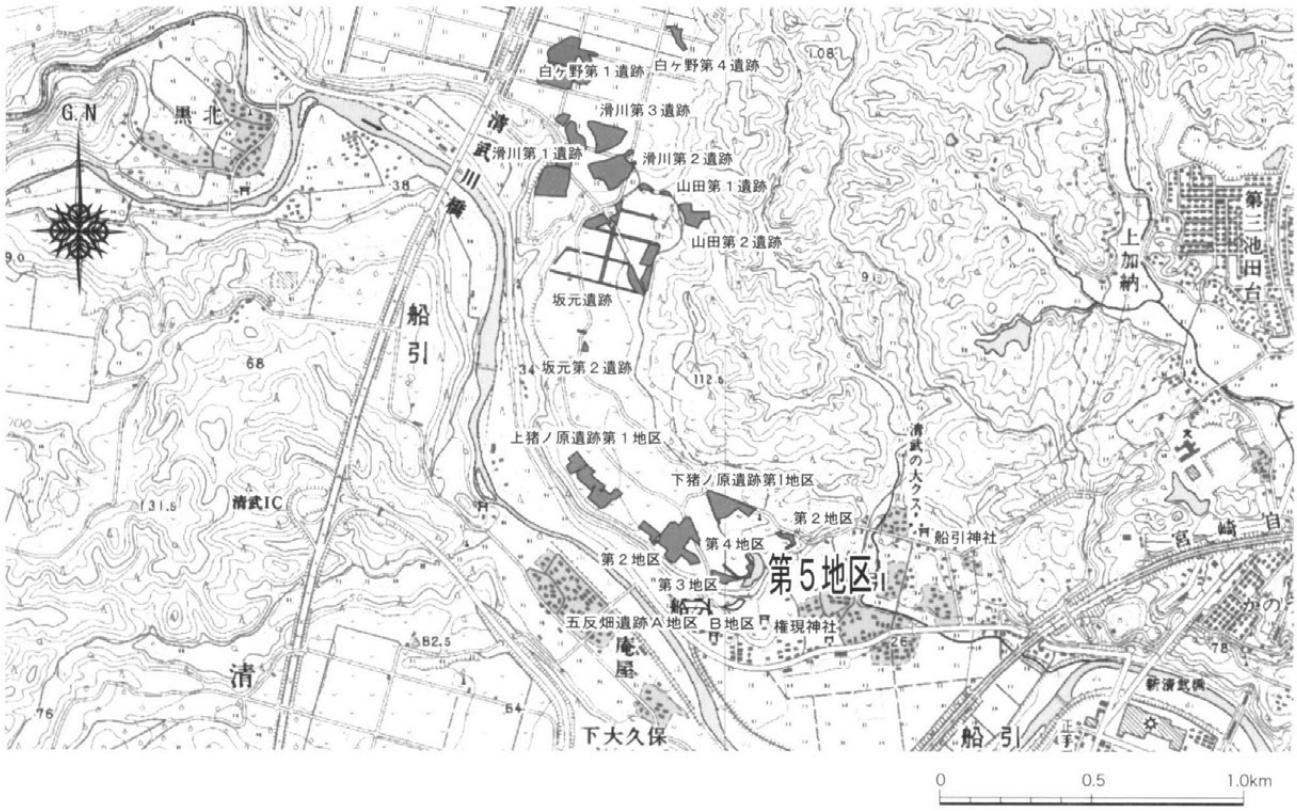
なお経過や調査概要等の詳細については下記の文献を参照していただきたい。

文献１　清武町教育委員会　2006『清武上猪ノ原遺跡第５地区』清武町埋蔵文化財調査報告書第19集
文献２　清武町教育委員会　2009『清武上猪ノ原遺跡第５地区』清武町埋蔵文化財調査報告書第27集

第２節　平成20・21年度整理作業の概要

清武上猪ノ原遺跡についての調査成果の概要報告については平成17年度と平成20年度に行っており、検出された遺構の一部及び出土遺物の一部については整理作業を行っている。現地の調査が終了した平成20年度より本格的な整理作業を開始している。

平成20年度は現地調査で撮影した写真の整理、出土遺物の洗浄・注記・実測（一部）、縄文時代草



第１図　遺跡位置図（S=1/25000）

創期の土器の接合、集石遺構や竪穴住居の埋土中より出土した炭化物の放射性炭素年代測定などの業務をおこない、その概要については報告している。

平成21年度は縄文草創期の土坑であるSC-313遺構図及び出土遺物の整理作業、縄文早期の遺物包含層より出土した土器の接合（一部）、集石遺構実測図の清書（一部）、後期旧石器時代の礫群の接合、出土遺物の実測（一部）などの業務を行った。

第２章 縄文時代早期の遺構と遺物の整理

清武上猪ノ原遺跡第５地区では縄文時代早期の遺物包含層中から145基の集石遺構、炉穴29基、陥し穴状遺構４基、土坑多数が検出されている。なお遺構配置状況や集石遺構以外の遺構の概要については文献１・２を参照していただきたい。

第１節　集石遺構について

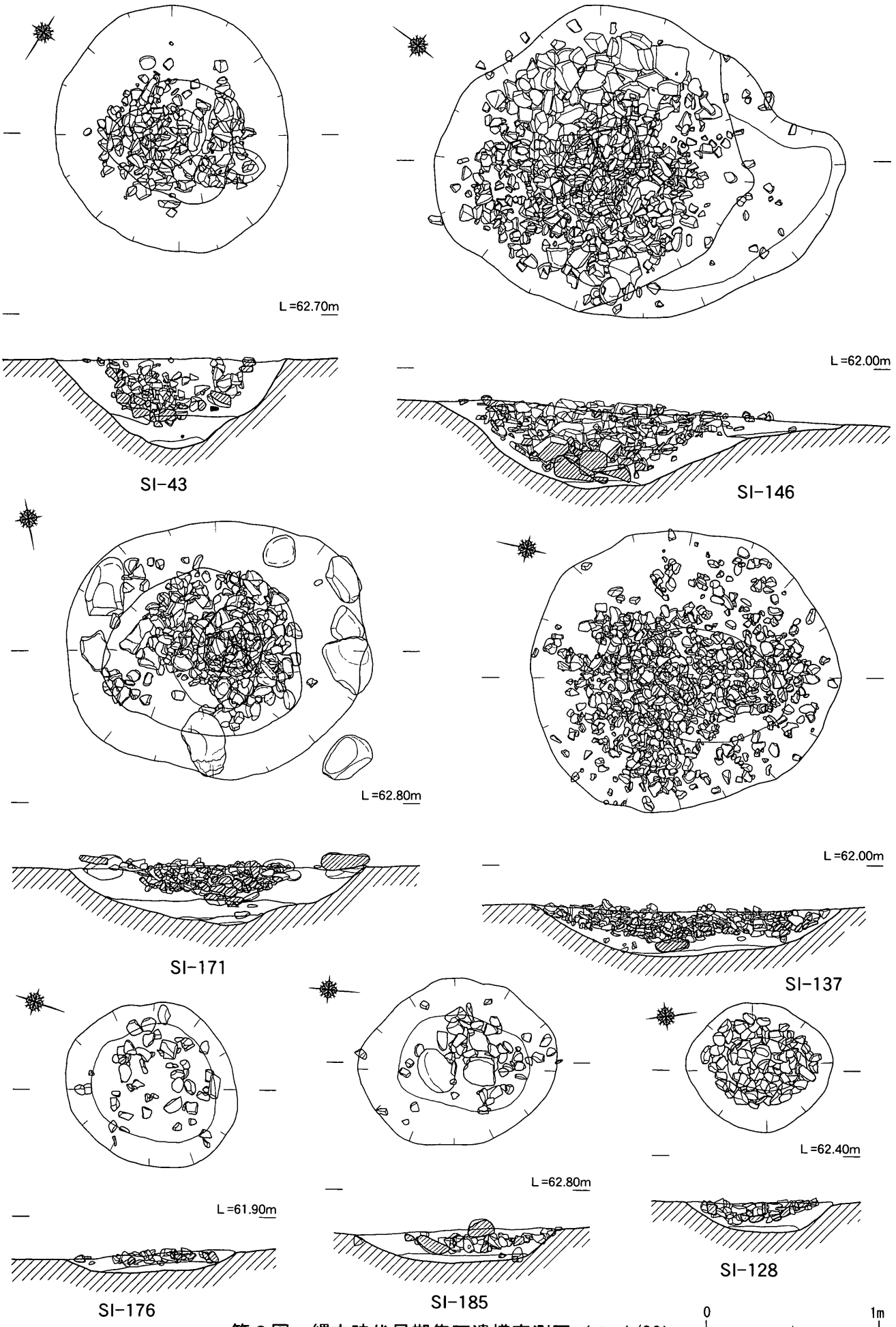
SI-43の礫の範囲は1.02m×1.02mで、底石はなく礫は掘り込みの形状に沿って断面形がU字状になるように詰まっていた。礫の総数は268個で礫の総重量は38.8kgを量る。掘り込みは1.43m×1.37mの円形プランで検出面からの深さは0.52mを測る。遺物は桑ノ丸式土器片、チャート製剥片が出土している。

SI-146は2.17m×1.68mで、底石は人頭大以上の３個の平たい石の隙間に拳大以下の礫を４個はめ込むように置いていた。礫の総数は929個で270.4kgを量る（内底石重量は26.5kg）。掘り込みは2.41m×1.8mの不整楕円形プランで南側にテラスを持つ二段掘りの形状で、検出面からの深さは0.52mを測る。遺物は押型文土器片、縄文を施文する土器片、チャート製剥片が出土している。

SI-171の礫の範囲は1.72m×1.42mで、上部礫は掘り込みの中央部分に集中しており、その周りに８個の人頭大以上の礫が置かれていた。そのうちの１個は石皿であった。底石は掘りこみの床面接するように８個の拳大～人頭大の礫が置かれていた。礫の総数は524個で総重量は128.4kg（内底石重量は5.1kg）を量る。掘り込みは1.75m×1.52mの不整楕円形プランで検出面からの深さは0.35mを測る。遺物は縄文土器片、砂岩製剥片・敲石が出土している。

SI-137の礫の範囲は1.79m×1.63mで、上部礫は掘り込みの中に密に詰まっていった。底石は掘りこみの床面に接するように人頭大以上の礫が１点置かれていた。礫の総数は768個で総重量は71.8kg（内底石重量は7kg）を量る。掘り込みは1.82m×1.62mの不整円形プランで検出面からの深さは0.32mを測る。遺物はチャート製石鏃、砂岩製敲石、チャート製剥片等が出土している。

SI-176の礫の範囲は0.85m×0.83mで、底石はなく上部礫も疎らである。礫の総数は56個で総重量は8kgを量る。掘り込みは1.03m×0.93mの不整円形プランで検出面からの深さは0.14mを測る。出土遺物は別府原式土器片、チャート製・砂岩製剥片が出土している。



第２図　縄文時代早期集石遺構実測図（S=1/30）

SI-185の礫の範囲は1.22m×0.73mで、底石はなく上部礫は疎らで、拳大の礫の中に人頭大以上の礫が２個混じっていた。掘り込みは1.17m×0.97mの不整楕円形プランで検出面からの深さは0.2mを測る。遺物は桑ノ丸式土器片が出土している。

SI-128の礫の範囲は0.7m×0.55mで、底石はなく上部礫は密に詰まっていた。礫の総数は76個で総重量は13kgを量る。掘り込みは0.86m×0.75mの不整円形プランで検出面からの深さは0.18mを測る。遺物は出土していない。

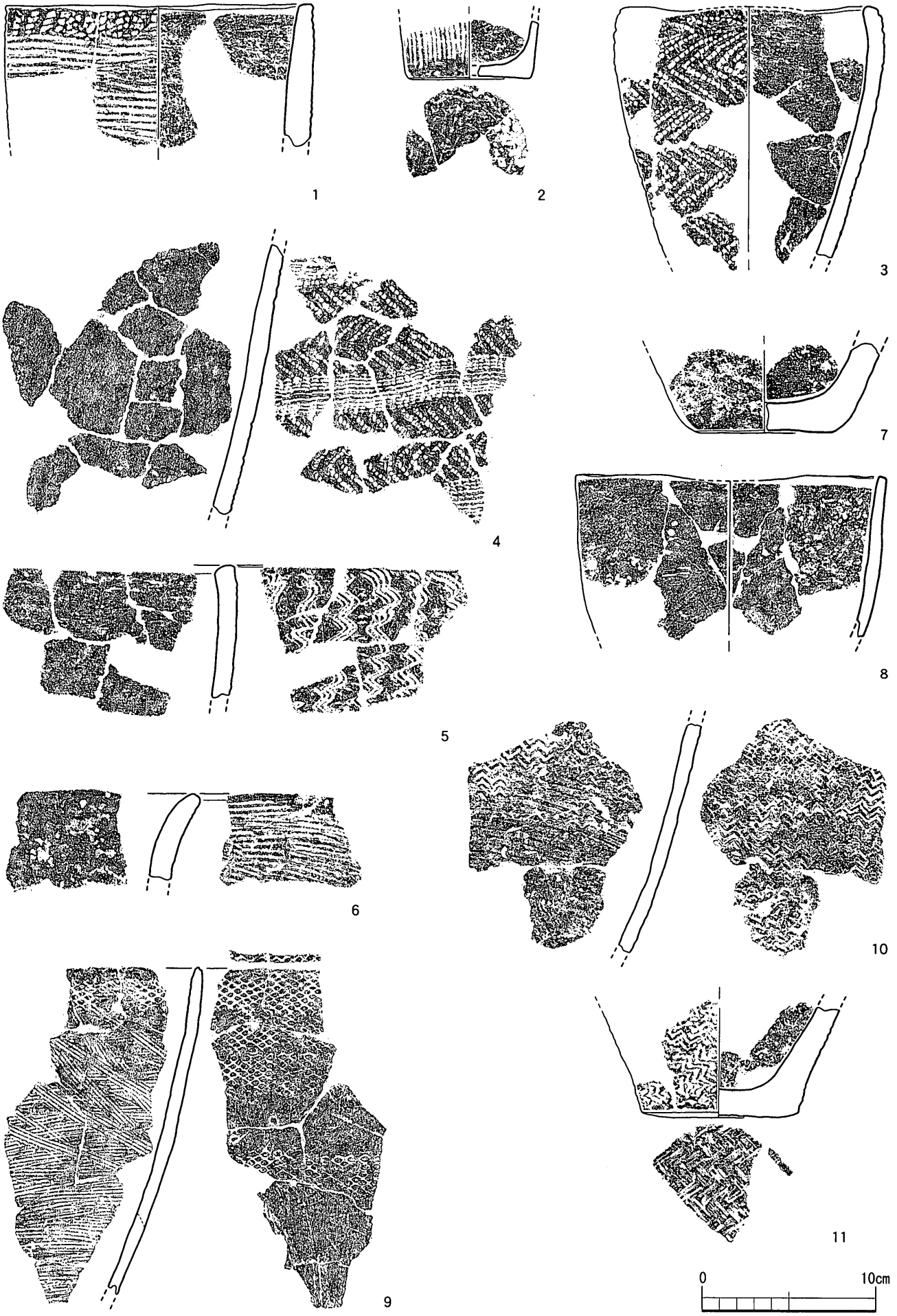
第２節　包含層出土土器について

１は前平式土器の口縁部片である。口縁部外面に貝殻刺突文、胴部外面に横位の貝殻条痕文が施される。内面は貝殻条痕文であろうか。口縁部径は17.6cmに復元される。２は知覧式土器の底部片と思われる。底部外面に縦位の貝殻条痕文が施される。底部径は7.1cmである。３・４は下剥峯式土器である。３は口縁部から胴部下位まで残存する。外面に貝殻腹縁刺突による横位の羽状文が施される。口縁部径は14.0cmである。４は胴部片である。外面に貝殻腹縁刺突による横位の羽状文と貝殻押引文が規則的に施される。５は桑ノ丸式土器である。外面に貝殻条痕による縦位の流水文が施される。６・７は別府原式土器もしくは中原式土器と考えられる。６は口縁部片である。外面に横位の貝殻条痕文が施される。７は底部片である。底部径は8.2cmに復元される。８は無文土器である。口縁部から胴部中位まで残存する。調整は内外面ともナデである。口縁部径は17.8cmに復元される。９～11は押型文土器である。９は口縁部から胴部中位まで残存する。外面は楕円押型文が帯状に施文される。内面は口縁部が横位の楕円押型文、胴部が条痕文である。10は口縁部に近い胴部片である。外面に横位の山形押型文が施されるが、一部ナデ消されている。内面は口縁部が横位の山形押型文、胴部が条痕文である。11は底部片である。外面に斜位の山形押型文が施される。底面に網代圧痕がみられる。底部径は9.0cmに復元される。

第１表　縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表

報告書No.	器種	残存部位	出土地点	層位	色調		文様及び調整		胎土					備考	実測No.
					外面	内面	外面	内面	石英・長石	輝石・角閃石	金色の雲母	白色粒	砂粒・小礫		
1	深鉢	口縁	D1・D4区	Ⅵ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶい赤褐(5YR5/4)	唇：ナデ、口：貝殻腹縁刺突文（押引状）、胴：貝殻条痕文	貝殻条痕文？（摩滅）	□			○	□2mm以下		113
2	深鉢	底部	B2・B3区	Ⅴ・Ⅵ	にぶい褐(7.5YR5/3)	黄灰(2.5Y4/1)	胴：貝殻条痕文・ナデ、底：ミガキ	ナデ	□	□		□	□2mm以下		119
3	深鉢	口縁～胴部	D1・D3区	Ⅴ・Ⅵ	にぶい褐(7.5YR5/3)	灰褐(7.5YR4/2)	唇：ナデ、口～胴：貝殻腹縁刺突文（羽状文）	ミガキ？・ナデ？（摩滅）	□	□		□	□7mm以下		122
4	深鉢	胴部	A1・B1区	Ⅴ・Ⅵ	にぶい黄褐(10YR5/3)	灰黄褐(10YR5/2)	押引文、貝殻腹縁刺突文（羽状文）	ミガキ	○	□			□2mm以下		115
5	深鉢	口縁～胴部	A1・A3区	Ⅴ	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい褐(7.5YR5/3)	唇：ミガキ、口～胴：貝殻条痕文（流水文）	ミガキ	◎	□		□	□2mm以下		114
6	深鉢	口縁	B1区	Ⅵ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶい黄褐(10YR6/3)	唇：ミガキ、口：貝殻条痕文	ミガキ	□	○		△	□3mm以下		120
7	深鉢	胴～底部	D2区	Ⅵ	にぶい黄橙(10YR6/4)	灰黄褐(10YR5/2)	胴：ミガキ？（摩滅）、底：ミガキ	ミガキ	○	□		□	□2mm以下		121
8	深鉢	口縁～胴部	D3・D4区	Ⅵ	にぶい黄褐(10YR5/3)	暗灰黄(2.5Y5/2)	ナデ	ナデ、指頭圧痕	○	△		□	□2mm以下	胎土に繊維痕	123
9	深鉢	口縁～胴部	B区	Ⅴ・Ⅵ	にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい褐(7.5YR5/3)	唇：楕円押型文、口～胴：楕円押型文（帯状施文）、ナデ	口：楕円押型文、胴：条痕文				□	□2mm以下	胎土に繊維痕	116
10	深鉢	胴部	C2区	Ⅴ・Ⅵ	にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい褐(7.5YR5/3)	山形押型文（一部ナデ消し）	口：山形押型文、胴：条痕文				△	△1mm以下	胎土に繊維痕および、7mm以下の扁平灰白色の礫を含む	118
11	深鉢	胴～底部	B区	Ⅵ	にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい赤褐(5YR4/3)	胴：斜位の山形押型文、底：網代圧痕	ナデ	○	○		○	□3mm以下		117

※「文様及び調整」における部位の表現は次のとおりである。　唇：口唇部　口：口縁部　胴：胴部　底：底部　（なお、残存している部位全てが、同じ文様調整の場合は部位名を記載していない。）
※胎土に含まれる鉱物の量を次の記号で示す。　△：微量　□：若干　○：普通　◎：多量



第３図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図（S=1/3）

SI-43

SI-146

SI-171

写真図版１　縄文時代早期集石遺構①

SI-137

SI-185

SI-128

写真図版２　縄文時代早期集石遺構②

写真図版３　縄文時代早期遺物包含層出土土器

第３章 縄文時代草創期の遺構と遺物の整理

縄文草創期の遺構としては竪穴住居跡14棟、炉状遺構２基、集石遺構２基、土坑19基が検出された。縄文草創期の調査成果の概要については文献２を参考にしていただきたい。なお、縄文草創期の遺物については遺物包含層中及び竪穴住居跡の埋土中より10000点以上の遺物が出土しており、その一部については文献１・２において報告している。

またSC-313については平成20年度から平成21年度にかけて遺構実測図の清書、埋土中から出土した遺物の接合及び実測図の作成、土器片に付着していた炭化物の放射性炭素年代測定をおこなった。本章では今年度実測図を作成した主な遺物とSC-313についての報告を行う。

第１節　遺物について

12～14はほぼ完形に復元できた竪穴住居跡より出土した隆帯文土器である。

12はほとんどの破片が８号竪穴住居跡の床面中央部付近から多くの炭化物片と共に出土した。口縁部付近に３条の隆帯を巡らせ、その上に横「ハ」の字の爪形文を施す土器である。口縁部は胴部よりやや内傾するが、口縁端部は屈曲して外側に開く。復元値で口縁部径34.3cm、器高34.7cm、底部径17.2cm、胴部最大径36.6cmを測る。

13は７号住居跡の東側の床面より出土した。口縁部付近を肥厚させて、その下端部に連続して斜位の爪形文を施文するものである。全体の器形は円筒形を呈する。復元値で口縁部径13.1cm、器高16.8cm、底部径8.7cmを測る。

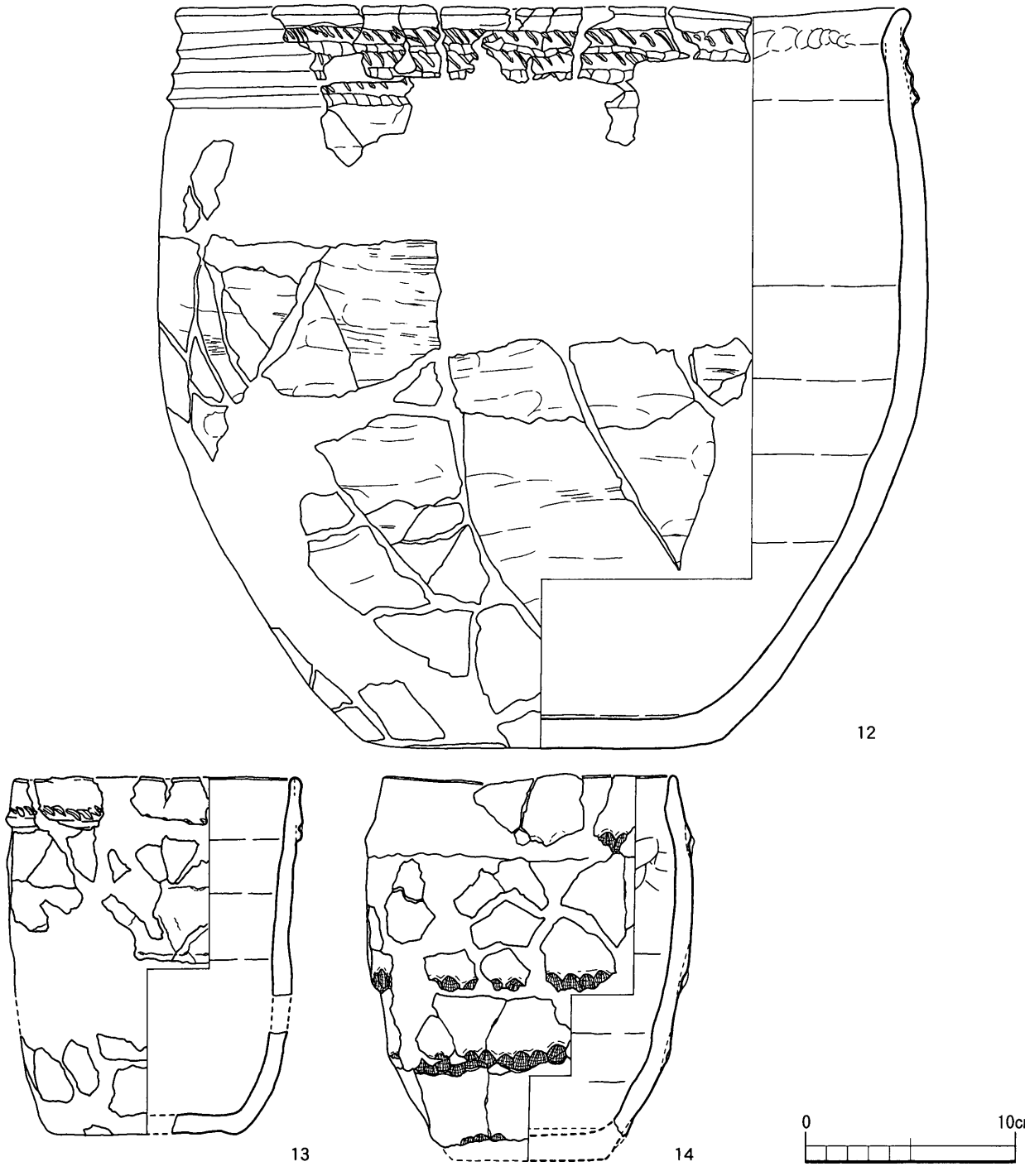
14は２号住居跡の埋土中よりほとんどの破片が出土した。口縁部～底部にかけて4条の隆帯を巡らせ、その上にハイガイの蝶番の部分を連続して押し当てて施文する貝殻押圧文土器と呼ばれるものに分類される。口縁部は胴部よりやや内傾する。復元値で口縁部径13.8cm、器高18.1cm、底部径7.2cm、胴部最大径15.6cmを測る。

15～17は打製石鏃である。平面形が二等辺三角形のもの（15・16）と正三角形のもの（17）に分類されるが、側面観が分厚い印象を受けるという特徴は両者共に共通する。

18・19は打製石鏃にしては分厚く、鋭い先端部が作られていないためその未製品と考えられる。

20・21は槍先形尖頭器である。両者共に流紋岩を石材とする。両者とも先端部及び下端部付近の調整は入念である。

22～25は矢柄研磨器である。全て平面形は長方形で断面形はカマボコ状を呈し、平坦な面には１条の溝を持つ典型的な形状である。本遺跡からは８個体出土しているが、全て破片資料で対になるものはなかった。石材は全て砂岩だが石英質が強く、新鮮面は白くなっている。平坦面にある溝の深さは概ね2mm～3mmで大差はないが、平面の形状に各々特徴が見られる。22の溝の幅は端部付近では1.3cmだが欠損部付近では2cmとなっており広がっている。23・24の溝の幅は1.1cm～1cmで特に大きく広がることもなくまっすぐに通っている。25の溝の幅は

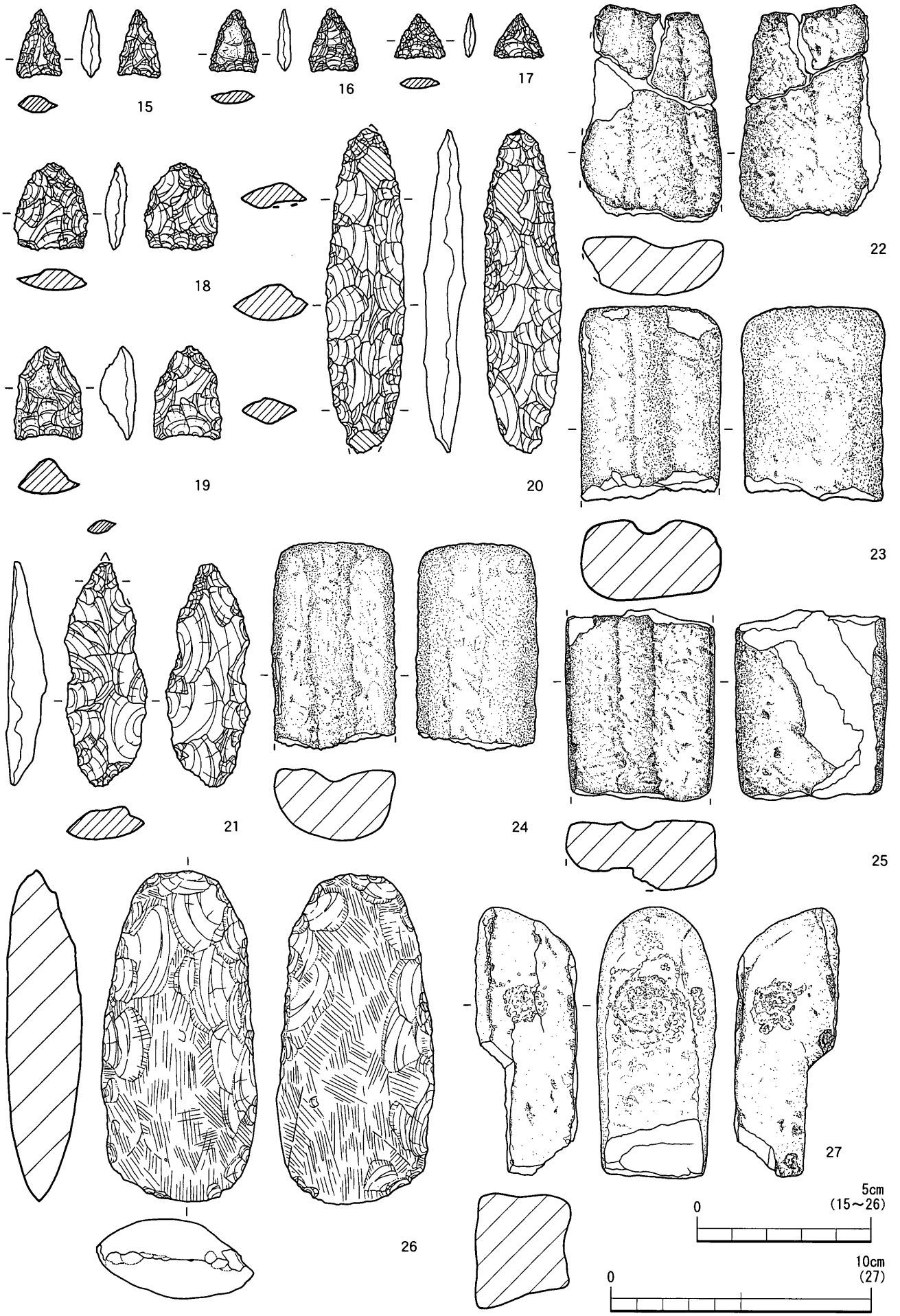


第４図　縄文時代草創期土器実測図（S=1/3）

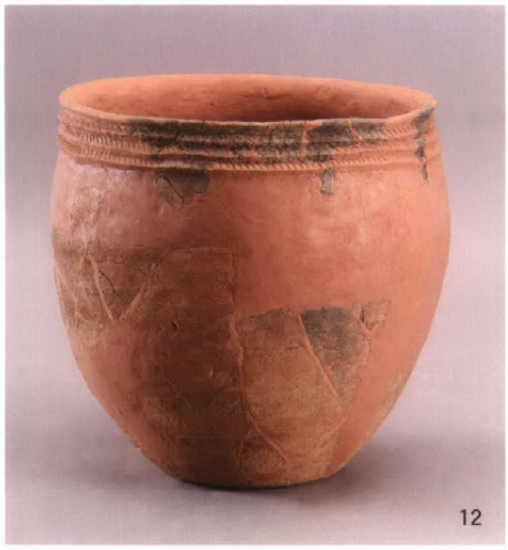
1.2cmだが、残存している中央部付近で少し湾曲している。

26は両刃の磨製石斧である。緑色堆積岩を使用するものでほぼ全面に研磨痕が確認されるが、敲打をおこなわず研磨を施しているためか両側縁部には体部調整の剥離面の稜線が潰れながらもまだ残っている。

27は砂岩の亜角礫を素材とする敲石である。被熱のため全面赤化している。なお平坦な３面に凹みが見られる。凹みは確認される３面とも同じ縦位置にあるため、叩く面が変わっても同じような持ち方で使用していたと推測される。

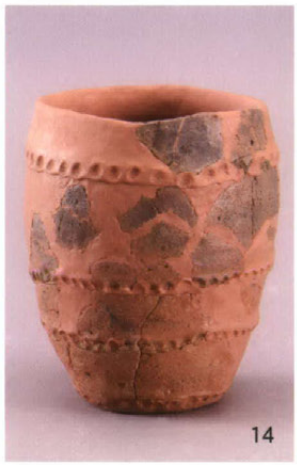


第５図　縄文時代草創期石器実測図（S=1/3　1/2）

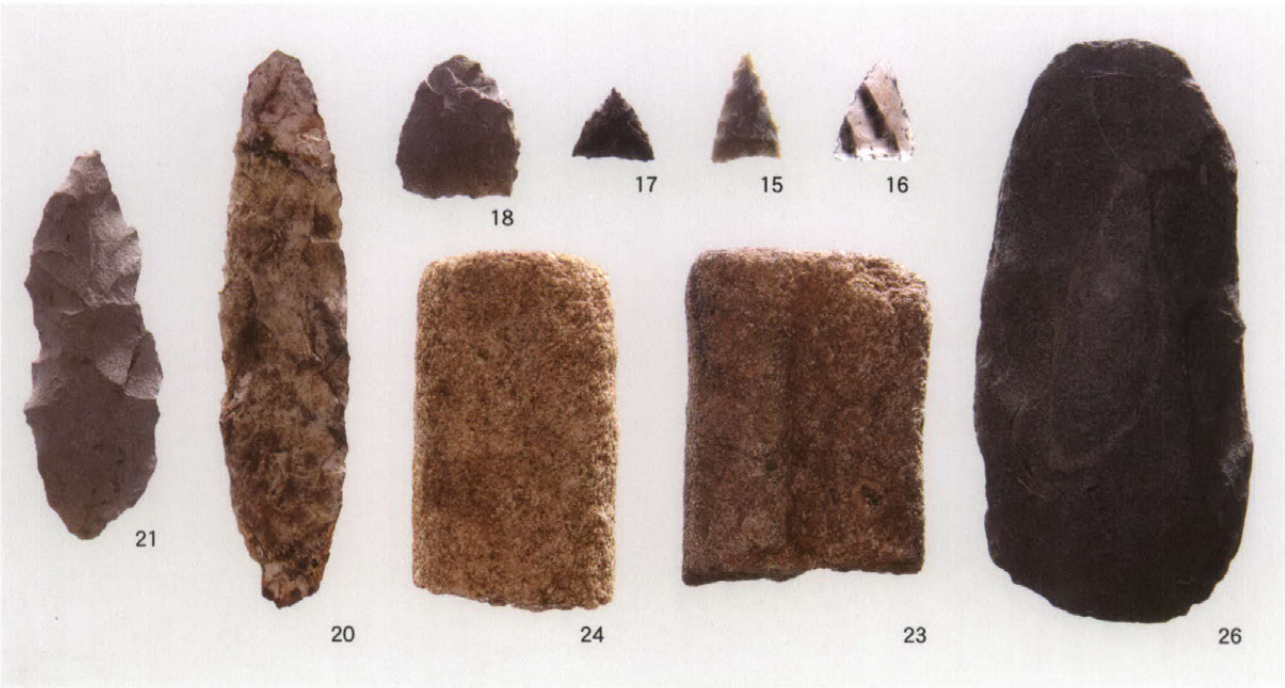


土器12紋様

土器14紋様



土器13紋様



写真図版４　縄文時代草創期遺物

第２節　SC-313について

SC-313は土坑である。平面形態は不整楕円形、断面形態はボウル状を呈する。遺構の規模は長軸1.15m、短軸0.90m、検出面から床面までの深さ0.35mである。床面から20cm程浮いた地点で４～５個体の土器が密集して出土した。土器の出土状況から、埋没途中の土坑に土器が一括廃棄されたことが予想される。そのほか、敲石１点（砂岩）・剥片５点（桑ノ木津留産黒曜石２点・チャート１点・砂岩１点・頁岩１点）が埋土中から出土している。

SC-313から出土した遺物のうち、口縁部が残存する土器３個体を図化した。28は口縁部から胴部上位まで残存する。口縁部は直口し、先端が舌状に尖る形態である。外面は口縁部に細かい擦痕、胴部にナデが施される。内面は指頭圧痕後細かい擦痕を施す。指頭圧痕によるものと思われる凹凸が器面に残る。29は口縁部から胴部下位まで残存する。器形は、胴部からやや内湾ぎみに立ち上がり、口縁部が「く」の字状に短く外反する形態である。外面は口縁部から胴部上位に細かい擦痕、胴部下位にナデが施される。内面調整はナデである。指頭圧痕によるものと思われる凹凸が器面に残る。内外面にススが付着している。口縁部径は27.0cm、胴部最大径は28.6cmに復元される。30は口縁部から胴部中位まで残存する。器形は、大きく歪むものの胴部から外側

第２表　縄文時代草創期石器計測分類表

遺物No.	整理No.	器種	出土グリット	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
15	71	打製石鏃	B3	Ⅸ	チャート	1.9	1.2	0.5	0.9	
16	52	打製石鏃	A4	Ⅸ	黒曜石	1.8	1.4	0.3	0.7	
17	69	打製石鏃	A3	Ⅵ	頁岩	1.2	1.4	0.3	0.3	
18	68	打製石鏃未製品	A3	Ⅷ	流紋岩	2.4	2.1	6.0	3.1	
19	70	打製石鏃未製品	A3	Ⅷ	安山岩	2.7	2.0	1.0	3.8	
20	66	槍先形尖頭器	A3	Ⅴ	流紋岩	(9.2)	2.3	1.2	(20.2)	先端・基部欠損
21	67	槍先形尖頭器	A2	Ⅵ	流紋岩	(6.4)	2.4	1.1	(13.1)	先端部欠損
22	43	矢柄研磨器	A3	Ⅵ	石英質砂岩	6.2	4.1	1.6	42.2	
23	48	矢柄研磨器	A3	Ⅵ	石英質砂岩	5.55	4.0	2.25	75.8	
24	49	矢柄研磨器	A3	Ⅵ	石英質砂岩	6.0	3.5	2.1	61.5	
25	45	矢柄研磨器	A3	Ⅵ	石英質砂岩	5.55	4.4	2.0	64.7	
26	75	磨製石斧	B3	Ⅷ	緑色堆積岩	9.5	4.5	2.3	120.5	
27	77	敲石		4号住居	砂岩	10.3	4.5	3.6	242.8	

（　）の値は残存値を示す

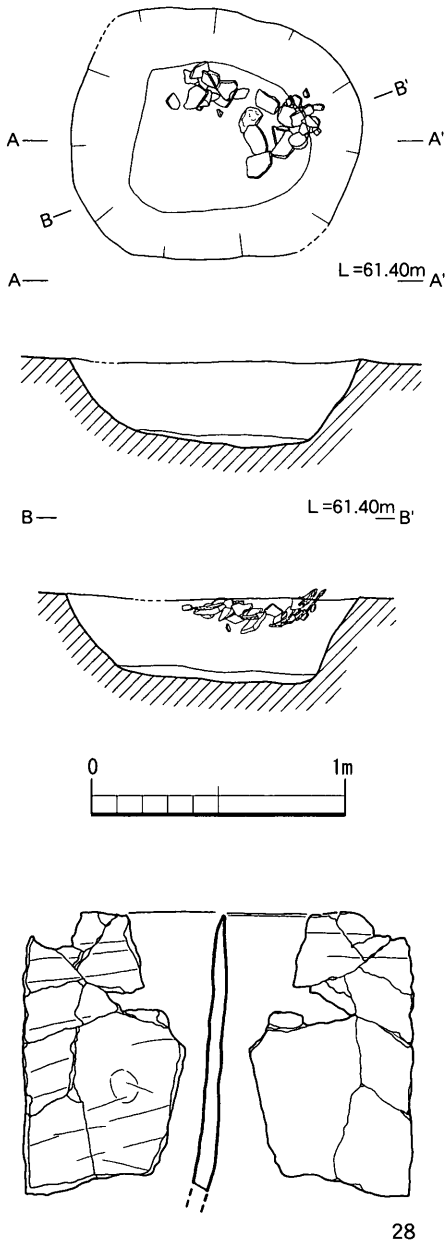
第３表　縄文時代草創期土器観察表

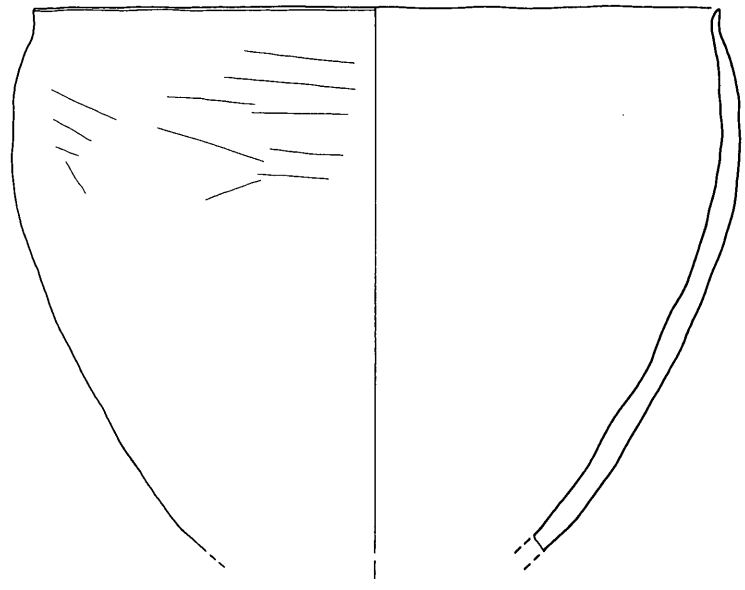
報告書No.	器種	残存部位	出土地点	層位	色調		文様及び調整		胎土					備考	実測No.
					外面	内面	外面	内面	石英・長石	輝石・角閃石	金色の雲母	白色粒	砂粒・小礫		
12	深鉢	口縁～底部	6･7･8号住居、B2・B3区	Ⅶ・Ⅸ	にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい赤褐(5YR5/3)	唇：ナデ、口：隆帯文の上に爪形文、胴～底：ナデ	ナデ	□			△	□1mm以下		63
13	深鉢	口縁～底部	7号住居		にぶい黄橙(10YR6/3)	黄灰(2.5Y4/1)	唇：ナデ、口：幅広の粘土帯の上に爪形文、胴～底：ナデ	ナデ	△			□	□3mm以下		61
14	深鉢	口縁～底部	2･3号住居		にぶい赤褐(5YR5/4)	黒褐(7.5YR3/1)	唇：ナデ、口～胴：幅広の粘土帯の上に押圧文（貝殻殻頂部）・ナデ、底：ナデ	ナデ	△			△	△1mm以下	胎土に５mm以下の赤色粒を微量含む	60
28	深鉢	口縁～胴部	SC313		にぶい黄橙(10YR6/3)	灰黄褐(10YR5/2)	口：指頭圧痕後？擦痕、胴：指頭圧痕後？ナデ	指頭圧痕後擦痕	△			△	△1mm以下		112
29	深鉢	口縁～胴部	SC313		にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい赤褐(5YR5/3)	口～胴上位：擦痕、胴下位：ナデ	ナデ	△			△	△2mm以下	内外面にスス付着	111
30	深鉢	口縁～胴部	SC313		にぶい褐(7.5YR6/3)	黄灰(2.5Y5/1)	指頭圧痕後ヘラ状工具によるナデ（一部ナデ消し）	唇：ヘラ状工具による刻目、口～胴：指頭圧痕後？ヘラ状工具によるナデ	△			△	△2mm以下	縦長の穿孔アリ	110

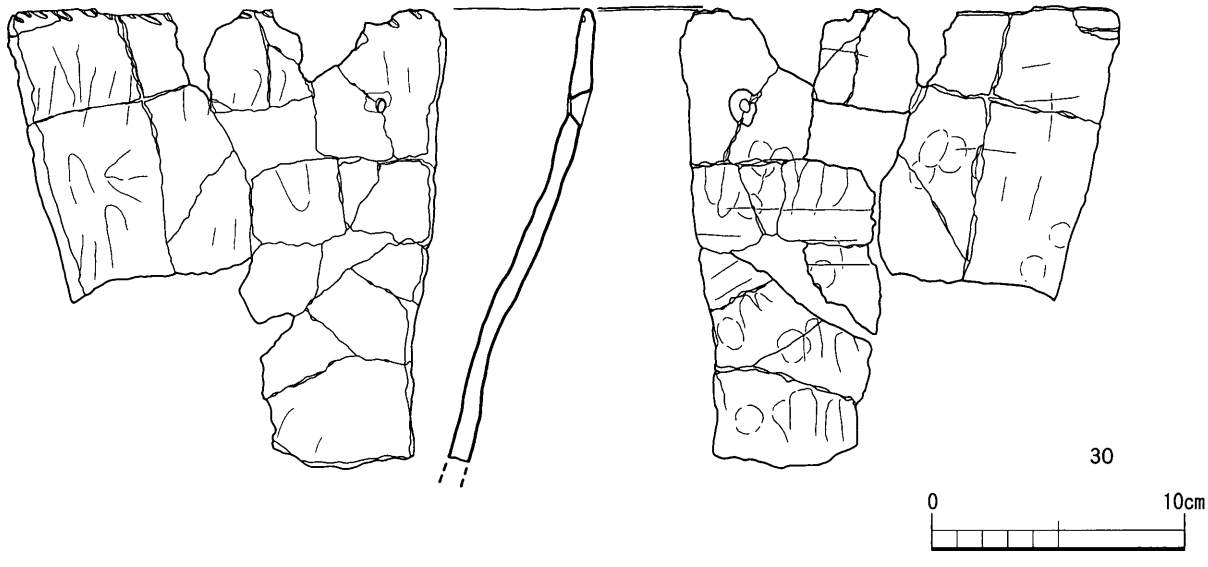
※「文様及び調整」における部位の表現は次のとおりである。　唇：口唇部　口：口縁部　胴：胴部　底：底部　（なお、残存している部位全てが、同じ文様調整の場合は部位名を記載していない。）
※胎土に含まれる鉱物の量を次の記号で示す。　△：微量　□：若干　○：普通　◎：多量

に開きながら口縁部に至る形態である。口縁部は直口である。口縁部内面には、ヘラ状工具よる斜位の沈線が施されている。また焼成後、口縁部外面側から縦長の穿孔が穿たれている。調整は内外面とも指頭圧痕後ヘラ状工具によるナデである。指頭圧痕によるものと思われる凹凸が器面に残る。

なお、SC-313から出土した土器片（写真図版５参照）を放射性炭素年代測定にかけた結果、10900±40BP(10970-10880calBC:95%、10950-10890calBC:68%)という年代値が得られている。







第６図　SC-313及びSC-313出土土器実測図（S=1/30　1/3）

SC-313遺物出土状況

SC-313土層断面

29

28　　^{14}C分析試料

30表

30裏

写真図版５　SC-313及びSC-313出土土器

調 査 抄 録

フリガナ	キヨタケカミイノハルイセキ
書名	清武上猪ノ原遺跡第５地区
副書名	県営農免農道整備事業にかかる埋蔵文化財調査概要報告書
巻次	第３集
シリーズ名	清武町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第３２集
編集者名	秋成雅博・今村結記
発行機関	清武町教育委員会
所在地	宮崎県宮崎郡清武町大字船引204番地
発行年月日	２０１０年３月

所在遺跡名	所在地	市町村：遺跡番号	北緯	東経	調査期間
清武上猪ノ原遺跡	清武町大字船引字上猪ノ原	清武町：205	31° 51′ 45″（日本測地形）	131° 22′ 33″（日本測地形）	2005. 7. 26～2008. 5. 30

調査面積	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
3,700㎡	農道整備事業	集落	旧石器 縄文（草創期） 縄文（早期） 縄文（前・後期） 古代 中世	礫群 竪穴住居跡 集石遺構 陥し穴 炉穴 掘立柱建物 など	石器 縄文土器 土師器 須恵器 など

特記事項

国内最大級の縄文時代草創期の集落跡・九州初の矢柄研磨器の出土
直径4mを超える縄文時代早期の集石遺構の検出

清武町埋蔵文化財調査報告書　第32集

清武上猪ノ原遺跡第５地区

－３－

県営農免農道整備事業船引２期地区工事にかかる埋蔵文化財調査概要報告書

発行年月日　平成22年３月１日
編集発行　清武町教育委員会
〒889-1696 宮崎県宮崎郡清武町大字船引204
TEL 0985-85-1111

印　　刷　株式会社 NETVision
〒889-1604 宮崎県宮崎郡清武町大字船引644-62
TEL 0985-84-4111